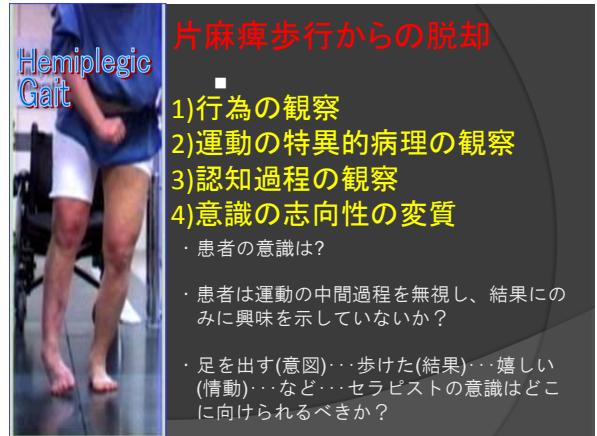


股関節への治療介入(実技)



片麻痺歩行からの脱却

■ 行為の観察

2)運動の特異的病理の観察

3)認知過程の観察

4)意識の志向性の変質

・患者の意識は?

・患者は運動の中間過程を無視し、結果にのみに興味を示していないか?

・足を出す(意図)…歩けた(結果)…嬉しい(情動)…など…セラピストの意識はどこに向けられるべきか?

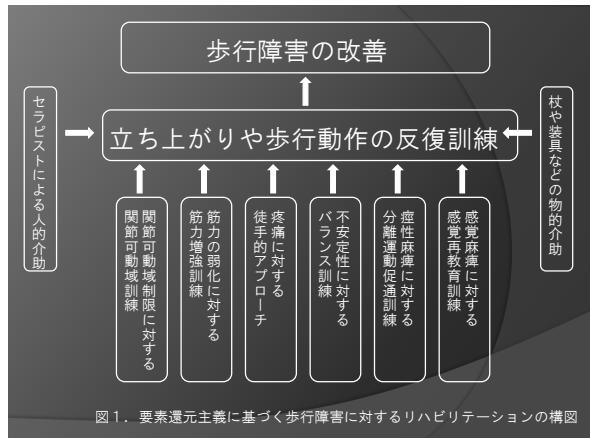
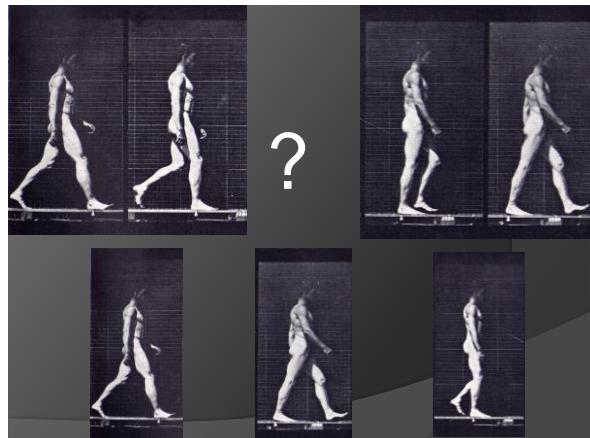
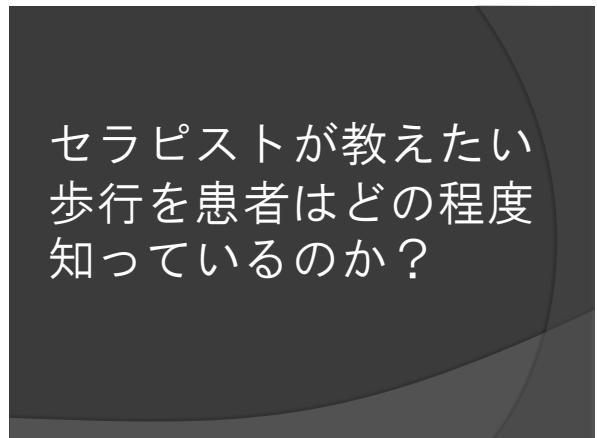
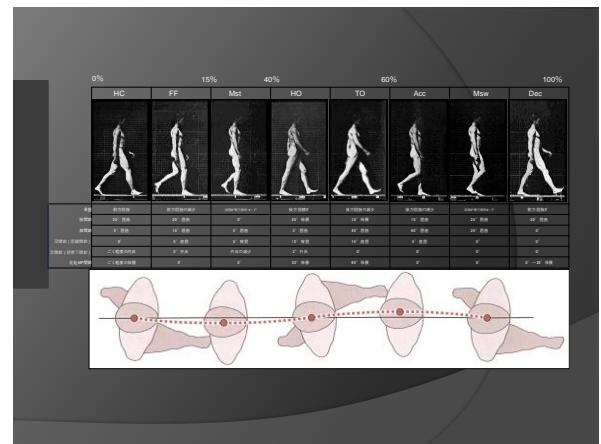
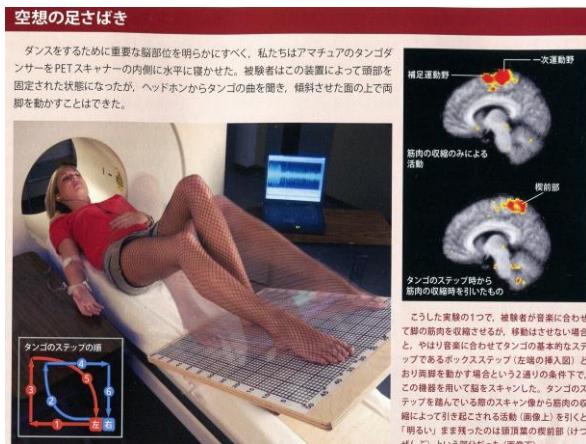
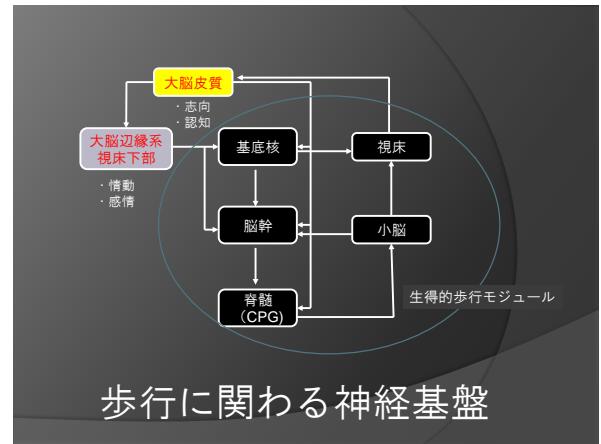
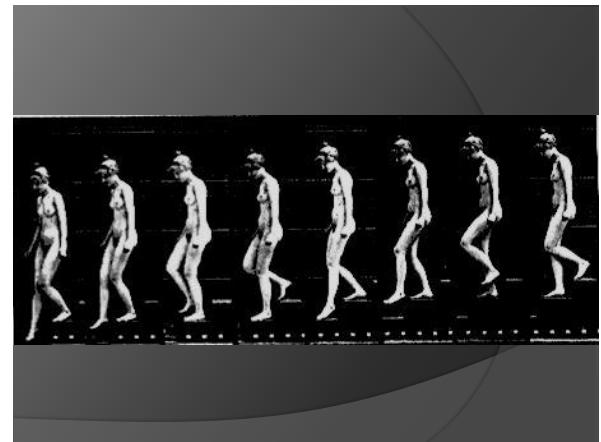
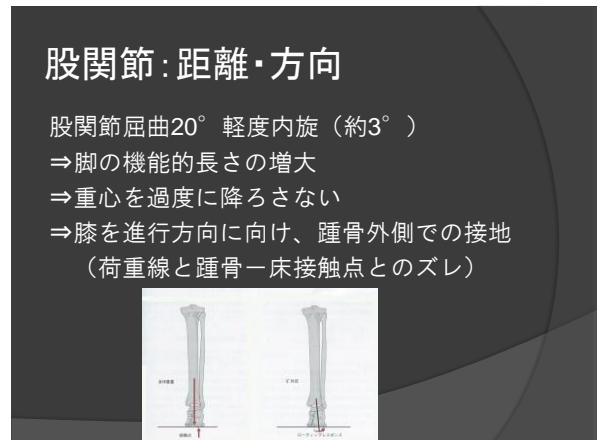
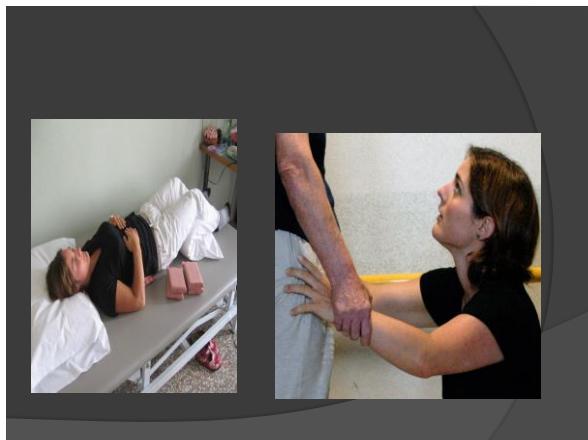
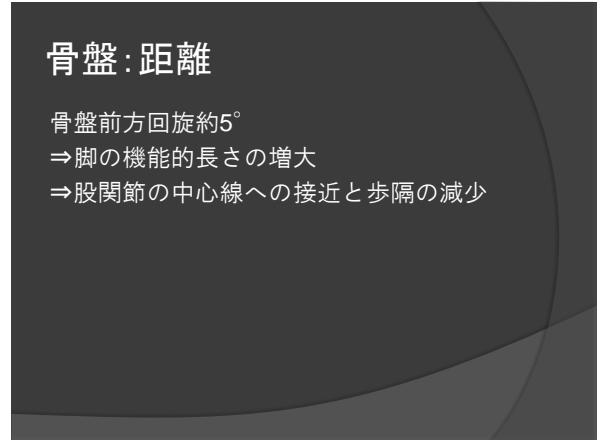
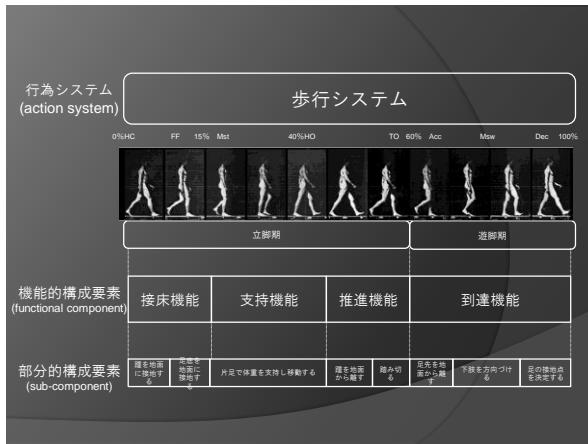


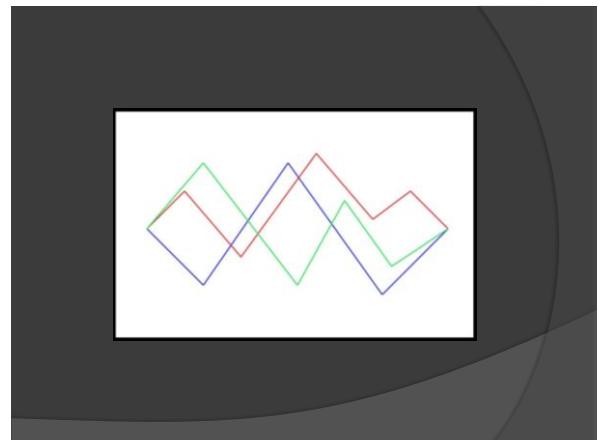
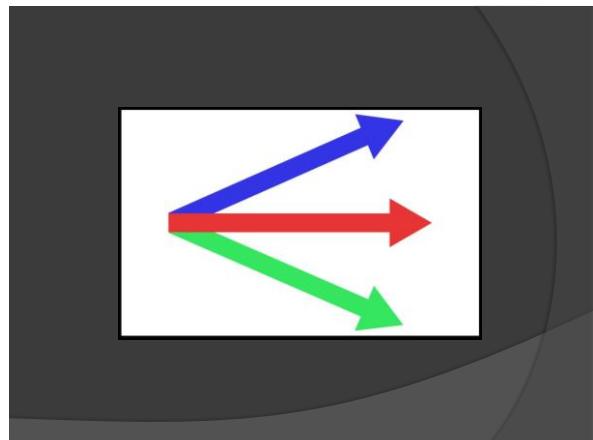
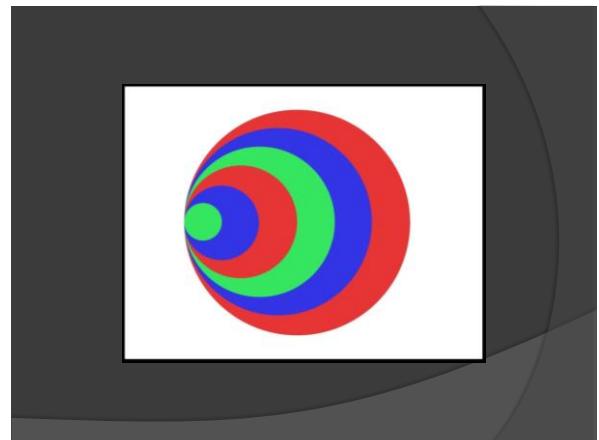
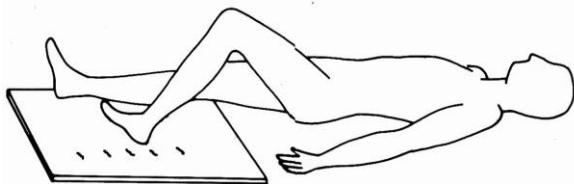
図1. 要素還元主義に基づく歩行障害に対するリハビリテーションの構図







Compito di supina

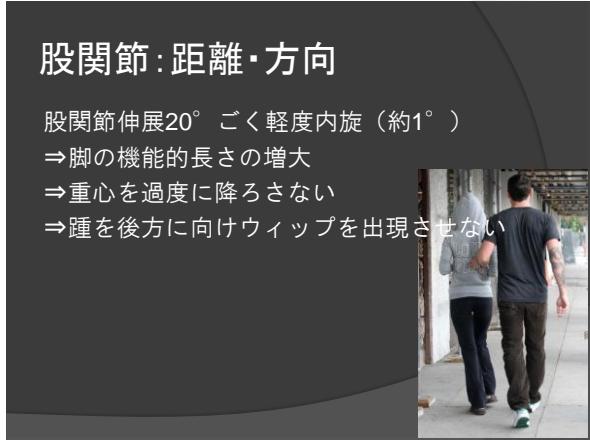
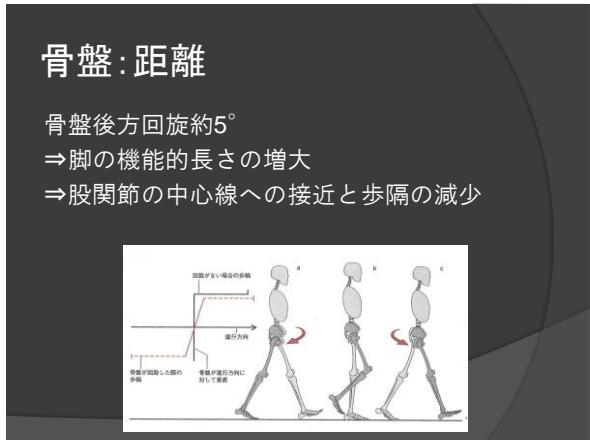




＜踵を地面から離す機能＞



骨盤：距離
股関節：距離・方向
膝関節：距離
足関節：距離・方向
足趾：距離
足底：表面素材・圧・摩擦



＜地面から足を持ち上げる機能＞



股関節：方向
膝関節：距離
足関節：距離

股関節：方向

股関節屈曲 15° 8° 外旋位から 0° へ
⇒外旋位から膝を進行方向に向ける
⇒腸骨筋・薄筋・縫工筋の協調運動である
⇒特に薄筋が股関節の屈曲と内転・内旋に
関与する。



図15. 下肢各関節の運動覚を認識する課題



図18. 前足部で床の水平性を認識する課題

＜下肢を方向づける機能＞



股関節：方向
膝関節：距離
足関節：距離

股関節：方向

股関節屈曲 25° 0° から軽度内旋
⇒次の接床に備えて膝をわずかに内側に向
ける
⇒脚の機能的長さの増大
(歩行中の最大屈曲)



図2. 下肢の各関節と踵の位置関係を認識する課題



図21. 足底部での触覚を認識する課題

＜足の接地点を決定づける機能＞



股関節：距離・方向
膝関節：距離
足関節：距離
足趾：距離

股関節：距離・方向

股関節屈曲20° 軽度内旋(3°)

⇒次の接床に備えて膝をわずかに内側に向ける

⇒脚の機能的長さの増大

⇒この相の終わりに足は約1cmの高さから自由落下する(ごくわずかな体幹前傾・股関節伸展・膝関節屈曲)



図23. 骨盤および下肢各関節を認識する課題



図1. 跡接地直前の自由落下

HC直前の約1cmの高さからの自由落下によって、
踵と床の接触時には短時間に激しい床反力が生じる。



図4. 跡部で圧覚を認識する課題

